

月刊



湖国が滋る・水と緑の街づくり

令和元年12月1日発行 通巻287号  
昭和40年8月21日第3種郵便物認可  
発行／公益社団法人 滋賀県建築士会  
〒520-0801  
滋賀県大津市におの浜 1-1-18 建設会館 3F  
TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : [shiga-sa@mx.bw.dream.jp](mailto:shiga-sa@mx.bw.dream.jp)

## CONTENTS

- ・三日月知事と楽しく有意義な  
意見交換会…………… 2
- ・情報広報委員会…………… 3  
2020年度フォトコンテスト作品募集
- ・まちづくり委員会…………… 4  
「滋賀けんせつみらいフェスタ」事業  
報告
- ・近畿建築士会協議会女性部会  
第5回 くらしとすまいをみつめる  
継続セミナー 高齢社会とすまい  
～老いを知り 建築士ができることを  
考える～ 事業報告
- ・地区だより…………… 5
- ・総務企画委員会…………… 6  
令和元年度会員名簿作成に係る情報  
収集について
- ・地区別会員数
- ・士会入会申込者
- ・12月の暦
- ・滋賀 万葉の旅 第7回  
米原市上丹生



米原市上丹生

【原文】

「ま金吹く 丹生のま朱の色に出て

言はなくのみぞ我が恋ふらくは」

## 三日月知事 と楽しく有意義な意見交換会

10月21日、知事が県内で活動する団体等を訪問して意見を聞く、「こんにちは！三日月です」の第65回開催に、公益社団法人滋賀県建築士会女性委員会が参加しました。女性委員6名と山本会長の計7名が、建設会館にて、三日月知事と多岐に渡り、楽しく意見交換を行いました。

「女性建築士のライフワーク～住みよい居住空間の創出のために～」とのテーマのもと、少し緊張気味に始まった対談でしたが、「滋賀らしい住まい」の話題から県産材の利用へと話が向う頃には緊張も解れ、使いたいけど使えない現状に日頃の思いが加わり、問題とされている、数量の安定確保・品質の一定化・価格問題等の打開策を知事へ陳情するような場面も生まれましたが、今、県産材は伐期に来ているようで、これからは期待度がUPしそうだとのお話を伺いました。

空き家問題においても、古い民家に住んでもらう方法は？との問いかけに、その建物の良さをきちんと持ち主に伝える事。住まい方の話し合いを十分重ね、住み手の思いを聞き出す事。そしてその家族にあった、またはその使い方にあったリフォームやリノベーションを行う。との意見に、知事は熱心に耳を傾けてくださいました。

そして、私達の中からは、医療福祉と建築の関わりついて問題を提起させて頂きました。

高齢社会を迎えている今、高齢者ケアの問題が社会問題として大きなウエートを占めています。生活支援や介護の在り方も変化し、地域で支える、地域包括ケアシステムの構築や専門職の繋がりを強化した、チームアプローチの手法がとられています。その専門職とされるのは、医師、理学療法士、作業療法士、看護師、保健師、社会福祉士、介護福祉士、ケアマネジャーなどです。しかしその中には、住まいの専門家である建築士は入っていません。要介護者と家族との住空間の在り方等々、住まい全体を視野に入れて判断する建築士も、チームアプローチのメンバーに入る必要があるのではないか。地域会議や地域包括支援センターによる包括的・継続的ケアマネジメント支援に、私達建築士も参加できるようなシステムは作れないのだろうか。との問いかけに、知事からは前向きなご意見をいただきました。

白熱した議論を交わす中、あっという間に時間は過ぎて行き、今までで一番多くの意見が出された意見交換会だったとの事。「次回も計画しましょう」とお声掛けも頂きました。振り返ってみれば、当初のテーマに加え、様々な話題に関する意見交換会となりましたが、建設的で楽しく有意義な時間を過ごせました。

私達女性委員会は、女性の明るさと、粘り強さと、向上心を持って、公益社団法人として、また、住まいの専門家として、広く社会に貢献できる活動を目指し、これからも頑張っていきたいと思います。最後にご来訪頂いた、親しみやすく、行動力にあふれている三日月知事に感謝いたします。ありがとうございました。



緊張が解け白熱する意見交換



三日月知事を囲んで笑顔で記念撮影

## 会員のみなさまの自慢の作品をお待ちしております。

**作品のテーマ** 「つなぐ」・「フリー」 (風景・建物などテーマは問いません)

**応募資格** 会員による自作作品とします。

**応募作品** 4つ切(カラー・モノクロ)、ワイドタイプ可、応募点数は問いませんが、作品は未発表のものに限ります。

**賞金** 大賞作品、入選作品には賞金を予定しています。

**募集期間** 令和元年12月～令和2年1月31日

**審査** 第11回「未来の家、未来のまち」子ども立体作品展会場にご来場の方々の投票による審査とします。

**発表** 令和2年5月 機関誌「家」及び滋賀県建築士会ホームページにて発表  
(<http://www.kentikushikai.jp/>)

**応募方法** 下記応募票に必要事項をご記入していただき、作品の裏面に糊付けの上、  
(公社) 滋賀県建築士会事務局までご持参いただくか、郵送にてお送りください。

**送り先** 〒520-0801 大津市におの浜1-1-18 建設会館3階  
(公社) 滋賀県建築士会「フォトコン係」 TEL. 077-522-1615

- 応募細則**
1. 応募作品の著作権は、主催者に帰属します。  
肖像権などについては、応募者の責任に於いて了解が得られているものとします。
  2. 応募作品は返却いたしません。ただし、返却希望者は着払便(ヤマト運輸予定)にて返却いたします。



**主催団体** 公益社団法人滋賀県建築士会

### 公益社団法人滋賀県建築士会2020年フォトコンテスト応募票

作品名		テーマ	
コメント			
応募者氏名		撮影場所	
会員氏名		撮影年	
住所	〒	連絡先TEL	
※取得した個人情報、フォトコンテスト事業以外に使用いたしません。		返却	必要・不要

今年はいにくの雨でしたが、10月19日に総入場者数2,400名余りをお迎えし、予定通りに開催されました。建築士会は今年も構成団体として参画出展致しました。

当建築士会のブースには常に多くの来場者であふれ多くの子も達が集まって、木工パズルや木の玉プール、ヨーヨー吊りなどを楽しんでいただき、建築相談会も開催しました。お手伝いいただいた20名もの会員皆さんのおかげで、当建築士会をアピールすることができました。早朝からのご協力をありがとうございました。



滋賀県建築士会ブース



子供たちとふれあう会員たち



大人気の木工パズル

## 第5回くらしとすまいをみつめる 継続セミナー 高齢社会とすまい～老いを知り 建築士ができることを考える～ 事業報告

近畿建築士会協議会女性部会主催

近畿建築士会協議会女性部会では、「くらしとすまいをみつめる」をテーマとし、継続セミナーを開催しています。第5回となる今回は、「高齢社会とすまい」について、座学及び高齢者の行動制限を体験するワークショップを通して、建築士としての気づきや関わりについて学び共有する勉強会を、11月2日(土)、ひと・まち交流館 京都にて開催しました。滋賀からの3名を含む、45名の参加があり関心の高さを感じました。

第1部 講演会では、愛知建築士会 福祉のすまい特別委員会委員長である竹中美智子氏を講師に迎え、「高齢社会とすまい～介護保険制度にみる建築士の役割」についてお話し頂きました。ご自身が福祉用具貸与事業所・設計事務所として関わる中で感じる福祉と住環境整備システムの問題点、愛知建築士会での取り組みなど分かりやすくお話し頂きました。



第1部 竹中氏による講演会

第2部では、参加者がうらしま太郎（高齢者疑似体験 推定80歳）になる人、付添い介護する人になり、施設内を移動し様々な日常動作を体験して、それぞれの気づきや感想をワークショップでまとめました。体験を通して、高齢者に対する理解が深まった、声掛けやコミュニケーションの必要性が何より大切であることが分かったという意見と共に、建築・設計の基本知識を持つ建築士が、“老いる”ということに理解と知識



第2部 うらしま太郎体験



第2部 ワークショップ グループ発表

を深め、よりよい社会環境を提案できることが必要との意見も挙がり、多くの気づきと学びを共有することができました。福祉住環境における建築士の関わりについてはこれからも学んでいきたいと思ひます。

## 大津地区

### 初秋の旅 報告

令和元年9月7日(土)に初秋の旅を実施しました。今回は明石海峡大橋「舞子海上プロムナード」を訪れ見学した後、橋の科学館にて中央支間1,991mという世界一の吊り橋の設計から建設までの説明を、館長様から直接熱く語って頂きました。科学館内部に飾ってある風洞実験で使われた1/100スケールの模型(全長約40m)の精工さに建築士にとっても見ごたえのあるものでした。

科学館のあとはワールドビュッフェハーバーランド店で昼食をとったり、神戸の街での買い物楽しんだり、親睦旅行としても意義あるものとなりました。



初秋の旅

## 甲賀地区

### 第3回 秋のゴルフコンペ大会開催報告

令和元年10月23日(水)、第3回となります秋のゴルフコンペ大会を開催致しました。

昨年同様、近江カントリー倶楽部をお借りし、平日にも関わらず県内外各地よりご参加いただき、この誌面をお借りして、まずは御礼申し上げます。

当日は清々しい秋晴れの中、日頃の練習の成果を思う存分に発揮していただきました。

参加者は22名と、少し小ぶりなコンペとなりましたが、プレー終了後の表彰式を兼ねたパーティーでは参加者同士で懇親を深めていただき、大変有意義な一日となりました。

入賞者の賞品は恒例の「近江牛」で、喜んでいただけた事と思います。

次回も開催を予定しておりますので、是非ともふるってご参加ください。

◆成績は下記の通りです。

優勝：木下 幸玉	湖東地区
準優勝：杉村 嘉実	湖東地区
第3位：小森 正章	湖北地区 (敬称略)



スタート前集合写真



表彰式

## 湖南地区

### ゴルフコンペ

令和元年9月25日(水) 第14回「こなんオープン」ゴルフコンペを朝日野カントリー倶楽部にて開催致しました。大変良い天気でした。今回の優勝者は前回と同じく西村学さんでした。



こなんオープン集合写真

## 大津地区、湖南地区

### 景観づくりチャレンジ隊 報告

令和元年9月29日(日)、大津草津景観連携事業「景観づくりチャレンジ隊」が開催されました。今年も公益社団法人滋賀県建築士会大津地区委員会と湖南地区委員会で事業協力しました。

今回は東海道統一案内看板製作体験、東海道統一案内看板デザイン木製しおり製作体験、大津百町周辺まち歩きを行い、大津市・草津市の小学生を対象に親子で参加して頂きました。実際に東海道沿いに設置される看板の塗装体験と、しおり製作体験を通して、平成29年度から始まった東海道統一案内看板の取り組みを知ってもらいました。

また大津百町周辺のまち歩きでは、クイズを交えながら東海道の景観や地域の方々が取り組まれた電線地中化、そして今も残る貴重な大津町家等をまち歩きを通して学んでいただきました。午前中で短時間の中でしたが充実した事業になりました。



景観づくりチャレンジ隊

今後も大津市と草津市が市域を超えて、魅力ある景観を次世代に引き継ぐため、私たち建築士会も協力していきたいと思っています。



景観づくりチャレンジ隊

今般、公益社団法人滋賀県建築士会では、令和元年度の役員改正に伴い会員名簿を作成、発刊いたします。  
 つきましては、別添同封資料の「会員名簿に係る調査票」に必要事項を記入のうえ、**令和2年1月10日まで**  
 にご提出いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

名簿に記載する事項

- ・別添「会員名簿に係る調査票」に必要事項を記入のうえ、提出してください。
- ・記載したくない項目については不記載希望欄に「×」とご記入ください。
- ・氏名及び所属地区委員会については、最低限記載することとさせていただきます。
- ・返信が無い場合は、建築士会で把握しております情報により処理致します。

その際の名簿記載事項につきましては「氏名」・「所属地区委員会」のみとなります。

その他ご不明点がありましたら（公社）滋賀県建築士会事務局 TEL 077-522-1615 までお問合せ下さい。

地区別 会員数	支部	大津	湖南	甲賀	湖東	彦根	湖北	高島	湖西滋賀	計	士会入会申込者	
											地区	氏名
令和元年 11月1日現在	10月	202	149	80	105	83	134	64	24	841	大津	小根田 守
	11月	204	149	80	105	83	134	64	24	843	大津	澤 毅
	差引	2	0	0	0	0	0	0	0	2		

12月の暦

1 日 先負		12 木 友引		23 月 先勝	建設会館 大掃除
2 月 仏滅	情報広報委員会	13 金 先負	青年委員会 つくえとげんばの見学会	24 火 友引	
3 火 大安	青年委員会 次世代育成事業 青年委員会	14 土 仏滅		25 水 先負	
4 水 赤口		15 日 大安		26 木 赤口	
5 木 先勝		16 月 赤口		27 金 先勝	
6 金 友引		17 火 先勝		28 土 友引	
7 土 先負		18 水 友引	滋賀県被災建築物応急危険 度判定士登録認定講習会	29 日 先負	
8 日 仏滅		19 木 先負		30 月 仏滅	12/30~1/3 事務局 年末年始休暇
9 月 大安		20 金 仏滅		31 火 大安	
10 火 赤口		21 土 大安	青年委員会 あ一き塾Vol.2		
11 水 先勝	四役会 理事会	22 日 赤口			

滋賀 万葉の旅 第7回

米原市上丹生

【原文】

「ま金吹く 丹生のま朱の色に出て言はなくのみぞ 我が恋ふらくは」

【解説】

米原市上丹生、いぼどり水駐車場にある歌碑は、ま金が鉄のこと、（ま金吹く）はふいごで風を送って製鉄を行う光景から、鉄の産地であったこと 吉備や丹生にかかる枕詞である。

近くの中山道の旧道には醒ヶ井宿のしっとりとした落ち着いた街並みが見られ、初夏には梅花藻ばいかもの白い花が清らかな水の流れにゆらめいているのを鑑賞することができる。  
 須賀谷温泉ブログより

